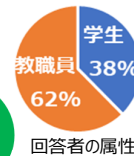


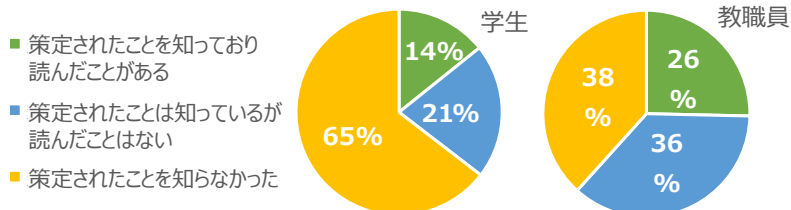
ダイバーシティ・ミニアンケート結果報告 — 性の多様性 —

実施期間：令和5年2月2日～令和5年2月28日 回答数：803（学生：302、教職員：501）



➤ 性の多様性ガイドラインを「読んだことがある」のは、学生14%、教職員26%と未だ少数。学生の6割以上が「策定されたことを知らなかった」と回答。

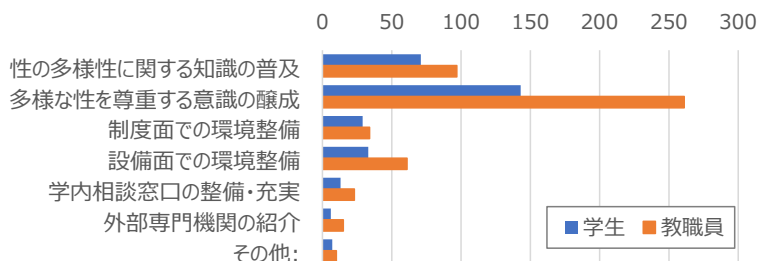
(1) あなたは新潟大学が令和4年9月に「新潟大学における性の多様性に関する基本理念と対応ガイドライン」を策定したことをどの程度知っていましたか？



ガイドライン策定から半年ほど経った時点で行われた調査でしたが、策定されたことを知らない、もしくは、策定されたことを知っているが読んだことがない、という方が、7～8割にも上ることがわかりました。引き続き、一層の周知を図っていきます。

➤ 最も必要な取組として、学生、教職員ともに約5割が「性の多様性を尊重する意識の醸成」、約2割が「性の多様性に関する知識の普及」を挙げた。

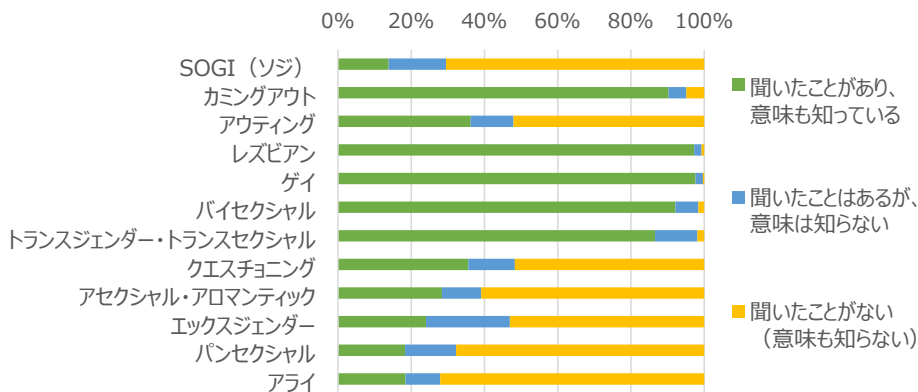
(2) ガイドラインで謳われている環境を整備するためには、どのような取組が必要だと思いますか？（最も必要なもの1つ）



意識啓発のほか、書類等における性別欄の見直しなどの「制度面」、更衣室やトイレにおける配慮などの「設備面」における環境整備を最も必要な取組とする回答も併せると約2割となり、具体的な整備も必要とされていることがわかりました。なおグラフには示していませんが、(1)で「ガイドラインを読んだことがある」と回答した方は、そうでない方に比べ「制度面」や「設備面」での環境整備を最も必要とする割合が高い傾向にありました。

➤ 「SOGI」や「アウティング」「アライ」等の用語を聞いたことがない学生や教職員が7割以上。性の多様性をめぐる諸課題の用語や多様な性の分類名の認知はあまり進んでいない。

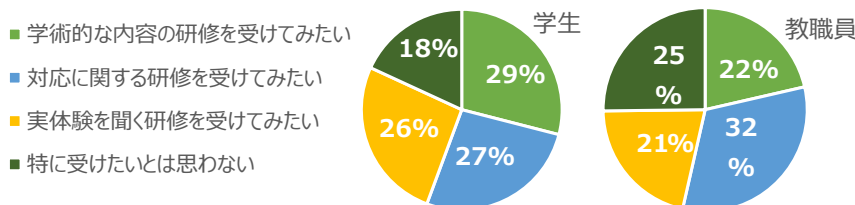
(3) 性の多様性に関する以下の用語について、あなたの認知状況に最も近いものを1つずつ選択してください。



性のありようを表す用語は、「レズビアン」「ゲイ」「バイセクシャル」「トランスジェンダー」だけでなく、性的指向や性自認が決まっていない「クエスチョニング」、他者に性的・恋愛的感情を抱かない「アセクシャル」等様々であり、いかに性が多様であるかを物語っています。また、全ての人の性のありようを表すSOGI (Sexual Orientation and Gender Identity) などの用語についても意識して使用していくことで、認知や理解が進むと考えられます。

➤ 学生の8割、教職員の7割は「性の多様性に関する研修等を受けてみたい」と回答。しかし、「特に受けたいとは思わない」との回答も一定数存在。

(4) あなたは性の多様性に関する研修等を受けてみたいですか？



(1)で「ガイドラインを読んだことがある」と回答した方以外で、「特に受けたいとは思わない」の回答が多い傾向がありました。より多くの方が「性の多様性」への理解を深められるよう研修以外にも工夫していきます。

その他、自由記述欄には183件もの貴重なコメントが寄せられました。

アンケートでいただいたご意見は今後の取組みの参考にさせていただきます。ご協力をありがとうございました。